

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：九州大学（中東・北アフリカ）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

日本の協力大学の拡大や現地関係機関との関係構築が進められ、ウェブサイトやSNSの活用による効果的な広報活動が行われている。

担当地域からの受入れ留学生数が新型コロナウイルス感染症拡大以前から伸びていない点については、要因分析と今後の取組方針に関する検討がなされており、今後に期待が持てるが、現地の宗教・文化的な事情への配慮など更に丁寧な対応が必要である。

2. 成果指標（※）の進捗状況

継続的な取組を行っているが、実績値が目標値を大きく下回っており、未達成の理由を分析して対応を検討する必要がある。ウェブサイトや複数のSNSを立ち上げ、多言語での情報提供を行うほか、留学フェアを複数回開催する等、積極的な情報発信を行っていることが認められ、帰国留学生との連携やネットワーク構築についても、成果指標は下回るものの、一定程度行われている。現地で収集した情報等について日本国内の大学へ共有・発信していく必要がある。

新型コロナウイルスの影響により未実施となっている部分については、オンラインを有効活用して代替策を早期設計し、着実に実施していく必要がある。

3. 実施体制の構築・活動状況

当初計画からの変更はあったものの、人員配置等の体制整備は着実に進行しており、関係機関とも連携しながら活発に活動が行われている。また、「J-MENAプラットフォーム」の構築により、国内外の大学への働きかけが効果的に行われている。実施してきた活動の効果を検証した上で、次に向けた行動計画を検討する等の姿勢が求められる。

4. 今後の実施方針についての検討状況

コロナ禍における事業の着実な実施のため、イベントや情報連携のオンライン化が進められている。全体向けと、ターゲットを絞ったアプローチとでは、オンラインの活用方策含めイベント設計が変わってくるものと考えられ、今後、様々な工夫を凝らして実効性ある取組を実施していくことが望まれる。オールジャパンでの活動を継続することを視野に入れ、先を見越した体制づくり等が行われている。財源やどのように活動していくのかより具体的な制度設計が求められる。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」